

【目次】

- 【1】生産管理学会関西支部 Facebook ページ開設について
- 【2】第 55 回全国大会のご案内
- 【3】支部メンバーコラム
- 【4】各研究会(全国・支部)の活動
- 【5】他支部、他学会、その他関連講演・講習会等の案内
- 【6】その他お知らせ・ご連絡

♪==♪==♪==♪==♪==♪

日本生産管理学会関西支部・メルマガ受信希望者各位

大阪学院大学の葛西です。

収束したかと思ったコロナ禍がオミクロン株で再び拡大し、2022 年も大きな身動きができないまま、すでに 50 日が過ぎてしまいました。コロナが始まって 2 年になり、日常や業務研究活動と行動自粛が前提となっていますが、気持ちは前向きに、いつでも外に出られる準備をして、日々を過ごしたいものです。

来月は第 55 回全国大会がオンラインにて開催されます。外に出られない時は普段突き詰められなかった理論研究など、いつもと違う研究に触れる良い機会ととらえ、ぜひご参加ください。

1000 字以上の発信ができないので、つづきは、添付にてご確認ください。よろしくお願いいたします。

発行：日本生産管理学会関西支部

連絡先：葛西恵里子(ekasai@hi-ho.ne.jp)

【1】生産管理学会関西支部 Facebook ページ開設について

昨年の支部総会で決定した、支部活動の広報のために Facebook を活用することと決定しましたが、1 月に開設いたしました。順次このメルマガと連動し、ページを更新いたします。ぜひページを開いていただき、**フォロー/いいね!**をお願いいたします。

Facebook 一般社団法人 日本生産管理学会関西支部 のページ

<https://www.facebook.com/jspmkansaihibu/>



【2】第 55 回全国大会のご案内

来たる 3 月 11 日～3 月 13 日、全国大会がオンラインで開催されます。学会員以外も参加可能ですので、関心をお持ちの方はぜひご参加ください。

統一論題：「再起と生産管理」

開催日時：2022 年 3 月 11 日（金）～3 月 13 日（日）

※3 月 12 日（土）の基調講演・特別講演は、学会員以外も無料で参加できます。1 週間前の 3 月 5 日（土）までに、大会実行委員会 nishimura@res.otaru-uc.ac.jp 宛ご連絡ください。接

続先をご案内します。

※研究発表／研究会報告は、参加費が必要です(学会員以外も参加可能)。2月28日(月)までに学会ホームページ (<http://e-jspm.com/>) の「全国大会」メニューからお申込ください。

統一論題は「再起と生産管理」です。感染症や自然災害、地政学的リスクなどの環境の悪条件、あるいは「身から出た錆」によって、企業は深刻なダメージを負うことがあります。そのような状態から、企業はいかに立ち直ることができるでしょうか。これが「再起」という問題に他なりません。今大会では、再起を特に生産管理と関連づけながら、再起のための生産管理、生産活動の再起といった課題に対する認識を深めたいと考えております。

タイムテーブル:

3月11日(金) (論文編集委員会・理事会:該当者のみ)

3月12日(土)

13:05~13:55 基調講演「再起生産こそ日本の再起(仮)」

株式会社 INDETAIL 代表取締役 CEO 坪井 大輔氏

14:00~14:50 特別講演 1「北海道経済の現状と展望」

前北海道副知事 小樽商科大学特認教授 辻 泰弘氏

北海道の戦略的産業は食と観光と言われていますが、どちらも赤潮被害などの生態系の変質や、言わずと知れたコロナ禍によって苦境にあえいでいます。北海道経済はまさしく再起が問われているのです。

14:55~15:45 特別講演 2「小樽高商の実践教育」

小樽商科大学名誉教授 篠崎 恒夫氏

小樽商科大学の前身の小樽高等商業学校は1920(大正9)年、「企業実践」なる科目を開設し、寄宿舎の隣接地に建設した石鹼工場で生産管理や原価計算などの実践教育を行いました。1920年といえばスペイン風邪が流行した時期であり、小樽高商の歴史を紐解くことはウイズコロナ時代と呼ばれる現代に対しても多くの示唆を与えるものと期待されます。

16:00~18:00 研究発表／研究会報告

3月13日(日)

9:30~12:00 研究発表／研究会報告

13:00~16:00 研究発表／研究会報告

[3]支部メンバーコラム

昨年の支部総会で、関西支部会員のみなさまの、署名付きコラムの掲載を始めることになりました。前回の総会報告もその一環です。Facebookにも掲載してまいりますので、掲載希望の方は末尾連絡先までご一報ください。投稿者の認知度向上にもつながると思いますので、ぜひ積極的に投稿いただきますようお願いいたします。

今回は、関西支部新副理事 船越亮さんのコラムです。

日本生産管理学会関西支部の船越です。現在、東京大学生産技術研究所豊田啓介研究室で、コモングラウンドについての共同研究をさせていただいています。コモングラウンドについて詳しくは、コモングラウンドリビングラボのHP (<https://www.cgll.osaka/>) と、gluon tokyo が公開しているYouTube (<https://youtu.be/IHPjkVuAeh4>) をご参照ください。

昨今、生産管理に限らず、デジタルツイン(Digital Twin)化が加速しています。デジタルツインとは、物理空間にある現実の空間・機器・設備およびそれらの環境情報・稼働状況などを、リアルタイムに収集し解析する一方、それらを仮想空間にデジタル情報として再現し、現実に応じたシミュレーションを可能にする技術です。近年ではIoTが普及し、あらゆるモノのデータをリアルタイムに収集することが可能になっていて、デジタルツインの技術も飛躍的に進化してきています。

ビジネス活動において、マーケティングやシミュレーションの実施は不可欠です。市場のニーズや規模に合った製品開発や品質管理のために、あらゆる業界でシミュレーションが実施されています。デジタルツインもシミュレーションの一種ですが、従来のシミュレーションとは違い、物理空間(現実)の変化と仮想空間とをリアルに連動させています。

機械部品の耐久性のシミュレーションを実施する場合を例に説明します。物理空間（現実）において機械部品には、使用を継続していく過程で摩耗や破損などが発生します。従来のシミュレーションの手法では、実際に発生したこのような摩耗や破損による変化のデータを、シミュレーション専用のソフトウェアに入力し、その結果をその後の製品開発や品質管理にフィードバックするという過程が必要となります。それに対してデジタルツインでは、物理空間（現実）で発生した変化とリアルに連動しているため、機械部品の摩耗や破損などを、リアルタイムに仮想空間に再現することができます。これによって、シミュレーションが迅速にできたり、リアルタイムの情報をAIによって解析し問題発生を予知したりできるようになります。

日本におけるデジタルツインの成功事例として、製品開発や生産管理や品質管理など、モノづくりの業界においてIIoT(Industrial Internet of Things)での事例は多いのですが、世界に目を向けると、シンガポールで実施されている『バーチャル・シンガポール (Virtual Singapore)』のように、都市そのものをデジタル化する試みが進行しています。仮想空間に3Dモデルを構築し、そこにあらゆるリアルタイムなビッグデータを統合することで、インフラ整備や渋滞緩和、アクセシビリティの改善などに寄与しようという試みです。近年、日本においてもスマートシティの取組みが推進されています。トヨタ自動車が進めているウーブン・シティが代表的な事例です。

2025年の『大阪・関西万博』をひかえる大阪で、デジタルツイン化が加速し、コモングラウンドの共通基盤が構築されていくことに貢献できればと、日々邁進しております。

(文：船越亮 r.funakoshi@kankou.co.jp)

【4】生産管理学会関西支部各研究会(全国・支部)の活動

関心のある研究会がございましたら、直接各「連絡先」までご連絡ください。

<1>生産性向上研究会(旧食品産業研究会を発展的に継承)

・次回予定: 3/19(土) 14:00~17:00,

場所: オンラインまたはスクラムソフトウェア様会議室

次々回予定: 4/23(土), 14:00~17:00

場所未定(対面の場合はスクラムソフトウェア様会議室、オンラインの場合はZoom使用)

・連絡先: 林 芳樹 (kyo884@khaki.plala.or.jp)

<2>SDGsのビジネス戦略研究会

・次回予定: 2022年2月26日(土) 14:00~

於: オンライン開催

・連絡先: 入江安孝 (yirie@iriesys.jp)

<3>新資本主義研究会 (SDGsのビジネス戦略研究会と同時開催)

・次回予定: 2022年2月26日(土) 14:00~

於: オンライン開催

・連絡先: 入江安孝 (yirie@iriesys.jp)

<4>関西生産管理資格制度研究会

・次回予定: 3/20(日) 10:00~11:30 オンライン会議 (Zoom)

・連絡先: 柏原秀明 (kasihara@mbox.kyoto-net.or.jp)

<5>学校給食における生産性向上

・次回予定: 未定

・連絡先: 葛西恵里子 (ekasai@hi-ho.ne.jp)

※ブロックチェーン研究会よりお知らせ

テクノロジーにおける産学連携活動を行う アカデミック シンクタンク SEYMOUR INSTITUTE 株式会社は、暗号資産が絡む強引な投資勧誘を受けた学生がその情報を提供できる、コミュニケーションアプリLINEチャットボットを活用した窓口「暗号資産 学生110番」を設置(2022年2月1日~28日)。この取組みに、会員である近畿大学森山真光先生も研究会として後援しています。

「暗号資産 学生 110 番」は、強引な投資勧誘に関するデータを収集し、被害の実態を分析するとともに、新たな被害防止に繋げるものです。



QRコードから「暗号資産 学生110番」をLINEで友だちに追加してください。

または、友だちID検索で @crypto を探してください。

実施期間：2022年2月1日(火) から2月28日(月)

注意：個人情報の取り扱いと利用目的の確認と同意が必要になります。

参考記事：「学生を守る！産学プロジェクト、暗号資産の強引な投資勧誘に関する「暗号資産 学生 110 番」がスタート、SEYMOUR INSTITUTE -産経ニュース」
(<https://www.sankei.com/economy/news/220201/pr12202010307-n1.html>)

【4】他支部、他学会、その他関連講演・講習会等の案内

<1>【日本経営システム学会】ニューノーマル研究部会「第6回会合」(知的財産分科会)開催について
大阪大学の三森先生より、下記の研究会のご案内を頂きました。興味をお持ちの方は、奮ってご参加ください。

【ニューノーマル研究部会「第6回会合」(知的財産分科会)の開催について】

- 日時:日時:2022年3月2日水曜日 18:30~
- 開催方法:Zoomを用いて開催
- 講演タイトル:「COVID-19 パンデミック下の知的財産権エンフォースメント,及び,インプリメンテーション」
- 講師:加藤浩先生(日本大学法学部・大学院法学研究科教授)
- 講演内容:2020年初頭から世界に広がった COVID-19 パンデミックは、さまざまな変異を繰り返し、新たに強烈な感染力を有するオミクロン株に変異した。そんな中、発表されたWIPOの最近のレポートによると、COVID-19 パンデミック下における特許申請数は増加傾向にあるという。その一方で、COVID-19 関連の知的財産権、とりわけ特許の取り扱いに関しては、インドと南アフリカがWTOに対して COVID-19 関連の知的財産権の waiver を提案するプロポーザルを提出したり、各国政府が強制実施権設定に向けた法体系を整備したり、あるいは製薬企業が COVID-19 関連の特許を自主的に無償で提供したりする等の動きがみられる。本研究報告では、まず COVID-19 関連特許の申請・取得の動向を特許データベースで抽出し、その動向を示した後、さまざまなステイクホルダーによる COVID-19 関連の知的財産権の取り扱いの実態を示し、ニューノーマル時代における知的財産権エンフォースメント及びインプリメンテーションのあり方を提言する。

※ご不明な点がございましたら下記へご連絡ください。

三森八重子・大阪大学招聘教授 dt4y-mtmr@asahi-net.or.jp

【5】その他お知らせ・ご連絡

・次回メルマガ情報提供のお願い

本メルマガは、関連の皆様の情報で作り上げていきます。

以下の情報をお持ちでしたら、末尾「連絡先」までご一報ください。

なお、**次回発行は2022年4/上~中旬**を予定しています。

2021年3/末を目途に連絡をいただくと幸いです。

◎**署名記事を募集**します。

◎他学会・他支部、その他関連講演会、書籍出版等、の情報があればお知らせください。

・読者募集・拡散のお願い

本メルマガは、支部内外・学会内外に関わらず、拡散歓迎です。

生産管理に興味をお持ちの方に広く知っていただけますと幸いです。継続して受信希望のある方は、直接送付いたしますので、末尾「連絡先」までご一報ください。

本日の内容は以上です。

全国大会で、Zoom 越しですが、皆様とお会いできることを楽しみに。

発行: 日本生産管理学会関西支部
連絡先: 葛西恵里子 (ekasai@hi-ho.ne.jp)

*このメールは日本生産管理学会関西支部会員および学会内外の希望された方へ配信しています。
また、このメールの登録リストに各々のアドレスは、生産管理学会のリストと同期できません。
アドレス変更をされる場合は、上記連絡先までご一報ください。